

単元構想 第5学年 「注文の多い料理店の続きを書こう」

- 1 指導者 齋藤 美穂
- 2 単元名 「注文の多い料理店」
- 3 本単元で身に付けたい資質・能力

No	本単元で目指すレベル	1	2	3
①	知識		○	
②	思考力・判断力・表現力		○	
③	共感的な人間関係		○	
④	チャレンジ精神		○	

4 単元設定

(1) 単元概要

本単元は、学習指導要領，第5学年の内容C「読むこと」(1)エに示された指導事項に関する指導のために設定されたものである。

(1) 読むことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりすること。

本教材は，現実世界から幻想的な世界に入り，最後はまた現実世界に戻るというファンタジー作品である。主人公の二人の紳士は，山猫の奇妙な注文を見るたびに，自分達に都合の良いように考え，喜んで奥へ奥へと進んでいく。そして最後には，食べ物にありつくつもりだったが，反対に自分達が食べられそうになるという逆説的なおもしろさがある。児童は，この後どうなるかと想像しながら，先へと読み進む楽しさを感じると考えられる。また，終始丁寧な山猫側の言葉遣いとぞんざいな口のきき方の紳士側との対比，ザワザワ，がたがたなどの擬態語や擬音語，様々な場面に散りばめられた色の表現にも着目させるとともに，なぜ紳士の顔だけは元通りにならなかったかを考えさせることを通して，作者がこの作品を通して伝えたかったことを考えていくことをねらいとしている。

(2) 単元目標

物語の構成や表現の工夫を見付けたり，作者の考え方に着目したりすることを通して，自分なりの作品の結末を考えることができる。

○ 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。 (知識及び技能)

○ 物語の結末を書くために，人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり，表現の効果を考えたりしている。 (思考力・判断力・表現力等)

○ 物語の結末を書くために，おもしろさが伝わる叙述を見付けたり，表現の効果を考えたりして，おもしろさを味わいながら読んでいる。 (学びに向かう力，人間性等)

(3) 児童の実態及び指導の手立て

本単元に関するレディネステスト(令和2年10月21日実施)の結果は，以下の通りであった。

① 文章から書き抜く問題	77%
② 文章に合う助詞を選ぶ問題	68%
③ 問いの文章より前から答えを探す問題	59%

レディネステストの結果から，文章から書き抜いたり，文章に合う助詞を選んだりすることができた児童は，約70%であった。この結果から，文章を正しく読んだり，言葉と言葉のつながりを意識したりすることができていない児童が約30%いることが分かった。さらに，教科書を読む際，一文字も間違えずに読むことができる児童は少なく，思いこみで読んでいることが多い。また，問いの文章より前から答えを探す問題では，正答率が59%と半数の児童ができていなかった。このことから，文章の前後のつながりや，全文を通して読むことができていない児童が多く見られる。

また，本学級の標準学力調査の正答率の平均値は77.5%であった。そのうち正答率が40%未満の児童が2名いる。これらの児童は，読む能力における正答率も25%と低い。

このことから，文章を正しく読むことができるよう音読の場面を多く取り入れたり，全文を通して叙述に即して考えられるような問いを設定したりしていく。

単元構想 第5学年 「注文の多い料理店の続きを書こう」

指導改善のねらい・全体への手立て

- ・根拠となる部分に線を引かせることで、教材文を基に考えられるようにする。
- ・教材文を短冊にしたり、一部を隠したりして提示することで、大事な言葉や表現の工夫に着目させる。
- ・単元を通して、グループでの話し合いの時間を設定し、お互いの読みを比較させることで、自分の考えを深めたり広げたりさせる。
- ・宮沢賢治が書いた他の作品にも触れさせておくことで、作者の世界観や伝えたいことを考える手がかりにさせる。

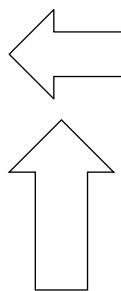
(4) 個の児童実態及び指導の手立て 該当児童の実態（A児）

児童の実態

- ・文章を正しく読めない。または読み直しが多い。
- ・問われたことに対して、違う内容を答えることがある。
- ・自分の思いは言えるが、根拠を探すことは難しい。
- ・板書を写すことはできるが、自分の考えを書くことは難しい。

つまずきの要因

- ・使える語彙が少ない。
- ・文章から言葉のまとまりを捉えたり、漢字を読んだりすることが苦手である。
- ・集中力の持続が難しい。
- ・書くことに時間がかかる。



指導改善のねらい・個への手立て

- ・事前に教材文を読み聞かせたり、音読させたりすることで、文章に対する抵抗感を減らす。
- ・一人で読めるようにするために、読めない漢字には読み仮名を書かせておく。
- ・毎時間の始めに今日学習する場面を確認することで、学習の見通しを持たせる。
- ・学習の足跡を掲示し、必要な時に確認できるようにさせる。
- ・根拠を見付ける際は、文章の範囲を狭めることで、自力で見付けられるようにする。

(5) 単元構想の工夫

本単元の学習において、常に叙述に即して考えさせ、書かれている言葉一つ一つを大事に取り上げていくことで、読み取る力を高めるとともに、読むことの楽しさを味わわせていきたい。

指導にあたっては、単元のゴールに「注文の多い料理店の続きを書こう」を設定した。自分なりに物語の続きを書かせるために、毎時間の読み取りを通して、この物語の構成や表現の工夫を見付けさせていく。また、宮沢賢治が書いた「紙くずのようになった紳士の顔だけは元に戻らなかった」という結末について考えさせることで、この作品で作者が伝えなかったこと（主題）に迫っていく。これらのことを生かして、主題に即し表現の工夫を取り入れた、自分なりの物語の続きを考えさせていきたい。

(6) 資質・能力とのかかわり

「思考力・判断力・表現力」に関して、全体を通して読み取る力や、問いに対する自分の考えを根拠や理由を明確にして表現する力を付けたい。

「共感的な人間関係」に関して、ペア学習やグループ学習、全体学習で自分の考えを説明する場を設定する。友達のととの共通点や相違点を考えながら交流させることで、交流して学んだことや気付いたことを発見し、互いの考えを共有したり、協力しながら考えようとしたりする力を身に付けたい。

「チャレンジ精神」に関して、考えなくなる問いを設定したり、児童の思考ととのズレを感じさせたりすることで、関心意欲を喚起し、チャレンジ精神を育てていきたい。

単元構想 第5学年 「注文の多い料理店の続きを書こう」

5 単元計画 (全10時間)

小単元	学習内容	本時のねらい			児童の「学び」の姿 (例)~している	育成できる 資質・能力		
		知	思	学		②	③	④
学習の見通し を立てる (1)	○全文を通読し、興味 を持った点について 感想を書いたり交流 したりする。			○	・教材文に興味を持ち、教師 の範読をよく聞き、自分な りの感想を書いている。			○
教材文を読み 取り、おもしろ さを生み出 す表現の工夫 を明らかにす る。 (7)	○物語の設定を捉え る。(時、場所、中心 人物、対人物等)	○			・読みの観点(時、場所、中心 人物、対人物等)を基に、物 語の設定を書き出してい る。	○		
	○「不思議な世界」の 入り口と出口を探し、 その理由を考え交流 する。		○		・文章から「不思議な世界」の 入り口と出口を見付け線 を引き、その理由を考え交 流している。	○	○	
	○擬態語や擬音語、 色の使い方など、 表現の工夫や効果 を考える。		○		・教材文から擬態語や擬音 語、色を使っている部分 を見付け、その効果を考 えている。	○	○	
	○紳士の言動から、二 人の人物像を読み取 る。		○		・はじめの場面の紳士の言 動から、自己中心的な人 物であることを気付いて いる。	○	○	
	○戸の言葉の意味につ いて取り上げ、山猫 の思惑と紳士の解釈 の違いを読み取る。 (2)		○		・戸の言葉の意味を考え、山 猫の思惑や紳士の解釈を それぞれの立場から考 えている。	○	○	
	○中心人物が変容した かどうかを読み取る ことで、主題を考え る。(本時)		○		・中心人物が変容したか読 み取る中で、作者の伝え たことに気付いている。	○	○	
注文の多い料 理店の続きを 書こう (2)	○注文の多い料理店の 続きを書く。			○	・これまで読み取ってきた ことを基に、主題や表現 の工夫を使いながら物語 の続きを書いている。	○		○
	○お互いの続きの文章 を読み合う。		○		・友達の作った物語の続 きを読み、良いところ を書いて伝えている。		○	

単元構想 第5学年 「注文の多い料理店の続きを書こう」

8/10時間 国語科学習指導案

1 学 年 第5学年 男子9名 女子12名 計21名


2 本時の目標

中心人物が変わったかどうかを読み取ることを通して、作者がこの作品で伝えたかったこと（主題）を考えることができる。

3 本時の「学び」を実行する振り返りと評価規準

A	叙述から読み取り、自分の考えも付け加えながら発言することができている。
B	叙述から読み取ることができている。
C	叙述から読み取ることができていない。

4 板書計画



・命の大切さ。
↓動物、自然

・自分勝手な人には悪いことが起こるということ。

・人間は少しのことでは変わらないということ。

作者がこのお話で伝えたかったこと

しかし、さっきいっぺん紙くずようになった二人の顔だけは、東京に帰っても、お風呂に入っても、もう元のおりにはなおりました。

めあて

現実の世界にもどった二人の紳士の姿から、作者がこのお話で伝えたかったことを読み取ろう。

心

→

顔

二人の紳士
変わった

- ・くしゃくしゃの紙くずのよう
- ・もう元のおりにはなおらなかった

変わっていない

- ・りょう師に対して「早く来い」
↓態度がえらそう
- ・とちゅうで十円だけ山鳥を買って
↓はじめの場面と考え方が同じ

単元構想

第5学年 「注文の多い料理店の続きを書こう」

5 本時の展開

	学習展開	「学び」の過程 ・児童の思考の深まり(具体) ○教師の問い(具体)	◇全体への手立て ◆他教科等との関連 ※個への手立て
課題設定・情報収集	問題場面の設定 課題設定 解決の見通し	○音読しましょう。(教科書131ページ最後の行から終わりまで) ○今日学習する場面を確認しましょう。 ・現実の世界に戻る場面 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> めあて 現実の世界にもどった二人の紳士の姿から、作者がこのお話で伝えたかったことを読み取ろう。 </div> ○二人の紳士の変ったところがありますか。 ・顔	◇毎時間、その時間の学習に関する場面を音読させる。 ◇学習する場面を確認し、見通しを持たせる。 ◇どこから分かるか問い、根拠となる文章に線を引かせる。
整理・分析	自力解決 集団思考 協働学習で「学び」を確かめる	○心は変わったでしょうか。最後の文章から分かるところはありませんか。 ・変わっていない。 ・顔だけはと書いてある。 ・「だけ」だから、顔以外は変わっていないということ。つまり心は変わっていない。 ○他にも心が変わってないところがありますか。 ・猟師に対して「早く来い。」と言っている。偉そうな態度が変わっていない。 ・「とちゅうで十円だけ山鳥を買って」帰っていることから、始めの場面で考えていたことと何も変わっていない。 ・助けてくれた犬や、団子を食べさせてくれた猟師に感謝の言葉もないから。 ○なぜ、二人の顔だけは元に戻らなかったのでしょうか。 ・恐ろしい思いをしても反省していない紳士をこらしめたかったから。 ・心が変わっていないことへの罰を与えた。 ・心が変わっていない代わりに、顔を変えた。 ・命を大切にしない紳士への罰を与えた。 話題の共有 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 作者は、このお話で何を伝えたかったのでしょうか。 </div> ・命の大切さ。 ・自分勝手な人には悪いことが起こるということ。 ・人間は少しのことでは変わらないということ。	◇最後の一文を提示し、まずはその中から根拠を見付け出させることで、心は変わっていないことを共通認識させる。 ◇本文の「 <u>だけ</u> 」に着目させるため、その部分を隠して提示する。 ◇紳士の人物像について学習した掲示物を貼っておくことで、終わりの場面の紳士と比べながら考えさせる。 ※掲示物やノート等、これまでの学習を振り返られる物を準備しておき、それを活用して考えさせる。 ◇二人の紳士の顔が元に戻らなかったという結末の意図を考えることで、話題の共有へとつなげていく。
まとめ	「学び」のまとめ	○作者が伝えたかったことは何でしょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・命の大切さ。 ・自分勝手な人には悪いことが起こるということ。 ・人間は少しのことでは変わらないということ。 </div>	◇話題の共有で考えた内容をまとめとし、友達のを考えをノートに付け足させる。

単元構想

第5学年 「注文の多い料理店の続きを書こう」

<p>実行・振り返り</p>	<p>「学び」の 実行 「学び」の 振り返り</p>	<p>○主題から何を感じましたか。感じたことをかきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人や動物の命を大切にしなければならないことが分かった。 ・紳士のように自分勝手な考えではいけないことが分かった。 	<p>◇主題から感じることを書かせることで、自分事として主題を捉えさせる。</p> <p>◇時間があれば、今日学習した場面を音読させる。</p>
----------------	--	---	--